

学会 消 息

◇異文化間教育学会

異文化間教育学会第11回大会が5月25日(金)、26日(土)の両日、放送教育開発センター(文部省大学共同利用機関)において開催された。本学からは真鍋一史教授が「国際理解教育の視点から見た『外国関連広告』の機能と逆機能」と題する研究発表を行った。

◇関西社会学会

第41回関西社会学会大会が6月2日(土)、3日(日)の両日、関西学院大学社会学部創設30周年記念事業の一環として関西学院大学において開催された。遠藤惣一社会学部長をはじめ、社会学部スタッフの協力により、その運営がなされ、参加者は312名であった。なお、遠藤惣一社会学部長が歓迎の辞を述べた。

本学からは、中野秀一郎教授が「日本社会とエスニシティ」部会、高坂健次教授が「方法」の部門、山本剛郎教授が「地域社会」の部門で、各々司会を、また、真鍋一史教授が「アジア社会」の部門で「中国に対するイメージ構造の変容」というテーマで研究発表を行った。

◇日本新聞学会

日本新聞学会1990年度春季研究発表会が6月2日(土)、3日(日)の両日、松阪大学において開催された。本学からは津金澤聰廣教授・真鍋一史教授・芝田正夫助教授が出席し、真鍋教授が「外国関連広告の内容分析——米国、中国、日本における事例研究——」と題する研究発表を行った。

◇情報通信学会

第7回情報通信学会大会が6月15日(金)、16日(土)の両日、明治大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が「国際情報としての広告の役割——米国、中国、日本——」というテーマで研究発表を行った。

◇International Congress of Applied Psychology

第22回 International Congress of Applied Psychology が7月22日(日)から27日(金)まで京都国際会議場において開催された。

真鍋一史教授が Poster Presentation の部門で The Structure of Political Involve

-ment : Use of the Facet Design for a Cross – Cultural Comparison と題する研究発表を行った。

◇日本社会心理学会

第31回日本社会心理学会大会が9月23日(日)、24日(月)の両日、関西学院大学社会学部創設30周年記念事業の一環として関西学院大学で開催された。大会委員長は田中國夫教授で、参加者は587名であった。日本社会心理学会は関西学院大学社会学部創設と時を同じくして創立、その創立大会は関西学院大学（大会委員長 田中國夫教授）で開催され、以来、10周年、20周年大会とふしめごとの大会が田中教授委員長のもと関西学院大学で開催されている。本学からは、佐々木薫教授がワークショップ『『集団』研究のゆくえ』の企画ならびに司会を、また、真鍋一史教授はワークショップ『『地球社会時代』と社会心理学』において「地球社会時代のための relevant な社会心理学」と題する話題提供をし、議論を展開するとともに、「態度・歴史」の部門において、「L. Guttmanの Facet Theory 開発の試み」というテーマで研究発表を行った。また、準備・運営に当たった関西学院大学社会学部の学生ならびに OB・OG は、“mastery for service”の精神を遺憾なく発揮し大会参加者の絶賛を浴びた。

◇日本広告学会

日本広告学会第21回全国大会が10月12日(金)、13日(土)の両日、一橋大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が統一論題「広告効果の測定」の部門で「広告の効果・影響・機能の分析枠組」と題する報告を行った。

◇日本社会福祉学会

第38回日本社会福祉学会大会が10月20日(土)、21日(日)の両日、関西学院大学社会学部創設30周年の一環事業として関西学院大学において開催された。大会委員長は武田建教授で、参加者は818名であった。大会テーマは「90年代の家族と社会福祉実践」であり、高田真治教授がシンポジウムの司会をしたほか本学から次の報告がなされた。(順不同)

荒川義子教授・松岡克尚（大学院学生）「80年代、危機介入の動向」

渡辺顕一郎（大学院学生）「システム家族療法のソーシャルワーク実践への導入に関する一考察」

横須賀俊司（大学院学生）「I L から見た生活保護批判」

林田佐和子（大学院学生）「結婚における女性のバーナウトの予防について——交流

分析理論による夫婦の親近性を育むことを通して——」

芝野松次郎助教授（共同）「児童虐待への一対応としての電話相談（その1）—『子供の虐待ホットライン』の活動—」

「同（その2）—『子供の虐待ホットライン』開設以来2ヶ月間の統計にみる現況と今後の課題」

立木茂雄助教授（共同）「エコロジカル・アプローチにおける治療構造の形成について」

◇日本社会学会

日本社会学会第63回大会が11月3日(土)、4日(日)の両日、京都大学において開催された。

本学からは真鍋一史教授が「基礎理論」の部会で「L. Guttman の Facet Theory 開発の試み」というテーマで研究発表を行った。

◇日本世論調査協会

日本世論調査協会の創立40周年記念大会が11月24日(土)、東京大学山上会館において開催された。本学からは真鍋一史教授が「日本人の中国イメージ——天安門事件後の変化の軌跡——」と題する研究発表を行った。

◇世界コミュニケーション年記念第7回コミュニケーション・フォーラム

情報通信学会と国連大学主催の第7回コミュニケーション・フォーラムが11月26日(月)と27日(火)の両日、神戸国際会議場で開催された。陳舜臣氏（作家）による「アジアの多様性とダイナミズム」とメリー・G・F・ビタマン女氏（前イースト・ウエストセンター・文化コミュニケーション研究所長）による「アジア・太平洋地域における文化と通信——情報の相互依存と情報交換のための地盤づくり——」の2つの基調講演の後、(1)プロフェッショナル・ネットワーキング、(2)「放送情報」の国際的共有、(3)文化接触としての広告、(4)アジア諸国の情報交流を支える技術、の4つの分科会が開かれ、それを踏まえて、最後に全体会議で総括討論が行われた。本学からは、津金澤聰廣教授、真鍋一史教授、正村俊之助教授、沙蓮香客員教授（中国人民大学教授）が参加し、それぞれ津金澤教授は分科会(1)の討論者、真鍋教授は分科会(3)の議長、沙蓮香客員教授は分科会(3)の報告者としての役割を果たした。

社 会 学 部 研 究 会 会 員

会 長	遠 藤 惣 一								
評 議 員	高 田 真 治	牧 正 英	中 野 秀 一 郎						
	村 川 満	対 馬 路 人	正 村 俊 之						
会計監査	佐々木 薫	宮 田 満 雄							
書 記	岡 部 衛 一 郎								
名誉会員	青 山 秀 夫	本 出 祐 之	小 関 藤 一 郎						
	萬 成 博	西 尾 朗	岡 村 重 夫						
	領 家 穰	嶋 田 津 矢 子	定 平 元 四 良						
	杉 原 方	清 木 盛 光	栃 原 知 雄						
	(A B C 順)								
普通会員	田 中 國 夫	倉 田 和 四 生	杉 山 貞 夫						
	半 田 一 吉	武 田 建	森 川 甫						
	張 光 夫	中 山 慶 一 郎	J. A. ジ ョ イ ス						
	船 本 弘 毅	津 金 澤 聰 廣	春 名 純 人						
	紺 田 千 登 史	西 山 美 瑳 子	真 鍋 一 史						
	山 路 勝 彦	山 本 剛 郎	鳥 越 皓 之						
	荒 川 義 子	安 藤 文 四 郎	浅 野 仁						
	高 坂 健 次	中 西 良 夫	芝 田 正 夫						
	芝 野 松 次 郎	宮 原 浩 二 郎	立 木 茂 雄						
	川 久 保 美 智 子	荻 野 昌 弘							

関西学院大学社会学部研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。
- 第2条 本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1-155 関西学院大学社会学部内におく。

第2章 事 業

- 第4条 本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 研究会などの開催
 2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
 3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
 4. 本学部の教育・研究に対する協力
 5. 国内外関係諸学会との協力
 6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

- 第5条 本会の会員は次のとおりとする。
1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
 2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
 3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

第4章 運営組織

- 第6条 第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。
1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
 2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
 3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
 4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。
なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。
 5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。
 6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

- 第7条 本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第5章 総 会

第8条 総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたとき、あるいは普通会员の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第9条 総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

第6章 会 計

第10条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第11条 本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費
 - 普通会员年額 19,200円
 - 賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第12条 本会員および本学社会学部大学院学生・学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間1,600円とする。

付 則

第1条 本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第2条 本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第3条 本会則は1989年4月1日より施行する。

「社会学部紀要」編集内規

1989年4月1日施行

1. 「社会学部紀要」（以下、本紀要という）は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。

- ①原著
- ②研究ノート
- ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
- ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
- ⑤その他編集委員会が必要と認めた記事

4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会员とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会员の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会员と共同研究をおこなった者とする。

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。

5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。

- ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
- ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
- ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する箇所を本文欄外に指示すること。

図凸版（トレース、写植代）は10,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。

- ④原稿には和文および英文の表題をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対して翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会が審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、版權処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。

10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷30部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された本紀要は名誉会員、普通会员および学生に配布する。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

執筆者紹介(掲載順)

小関藤一郎	関西学院大学名誉教授	荒川義子	関西学院大学教授
田中国夫	関西学院大学教授	中島尚美	元ボバース記念病院 ソーシャルワーカー
井上和子	関西学院大学研究員	浅野仁	関西学院大学教授
倉田和四生	関西学院大学教授	峯本佳世子	キリスト教ミード社会館 ソーシャルワーカー
杉山貞夫	関西学院大学教授	芝野松次郎	関西学院大学助教授
佐々木薫	関西学院大学教授	山田茂治	神戸市児童相談所 児童福祉司
中野秀一郎	関西学院大学教授	立木茂雄	関西学院大学助教授
山路勝彦	関西学院大学教授	倉石哲也	大阪府立大学 社会福祉学部専任講師
山本剛郎	関西学院大学教授	中川千恵美	関西学院大学カウンセリング・ ルーム カウンセラー
鳥越皓之	関西学院大学教授	真鍋一史	関西学院大学教授
安藤健次	関西学院大学教授	芝田正夫	関西学院大学助教授
高対馬路人	関西学院大学助教授	正村俊之	関西学院大学助教授
宮原浩二郎	関西学院大学助教授	半田一吉	関西学院大学教授
荻野昌弘	関西学院大学専任講師	森川甫	関西学院大学教授
牧正英一	関西学院大学教授	James A. Joyce	関西学院大学教授
遠藤惣一	関西学院大学教授	船本弘毅	関西学院大学教授
西美瑳子	関西学院大学専任講師	紺田千登史	関西学院大学教授
川久保美智子	関西学院大学専任講師	中西良夫	関西学院大学教授
武田建	関西学院大学教授	津金澤聰廣	関西学院大学教授
高田真治	関西学院大学教授		

1991年3月10日 印刷

1991年3月20日 発行

編集発行人 遠藤惣一

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(53)6111(代表)
(内線) 4212

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒660 尼崎市北大物町16-55

電話 (06)481-0707(代)